

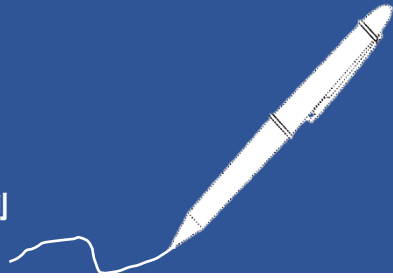
徳島ペンクラブ通信 第195号

2023年(令和5年)7月15日

発行

徳島ペンクラブ

1967年(昭和42年)創刊



令和5年度 総会開催 5月21日



令和5年度の徳島ペンクラブ総会は、5月21日(日)ザ・ホテルグランドパレスにて開催されました。前日まで危ぶまれた天気がまるで嘘のような五月晴れで、丁山会長のお元氣そうなお姿をお迎えて清々しい開会となりました。

コロナ禍によるここ数年の陰鬱さが徐々に薄らぎつつある中、近年になく42名の会員が参加されました。開会に先立ち、住友達也氏の講演後、総会となり、事業報告と計画、決算報告と予算案そして役員改選等の重要議案が審議承認されました。

◆第10代徳島ペンクラブ会長に依岡隆児さん

会長就任挨拶

交流と創造の広場に

依岡隆児

徳島ペンクラブの会長に就任いたしました依岡です。高知出身で、大学の教員と、徳島の文芸には縁もゆかりもなかった者ですが、当地在住30数年、地元での読書活動や新聞の読書エッセイ連載などで、多くの縁に恵まれ、徳島はいまや第二の故郷。この地で伝統ある文芸クラブの活動に関わらせていただけることを、このうえない喜びと感しています。

そんな私は、徳島ペンクラブといえば、「広場」を思い浮かべます。ヨーロッパの町の中に必ずといってよいほどあり、出会いと人々情報の交流の場となつて町を生き生きとしたものにする、そんな



「広場」です。私自身もこれまで、大学を中心に読書会を行ってきましたが、そこには読むこと・書くことを喜びとする、歳も職業も出身も違う人々が自然と集うようになりました。

(次ページに続く)

1頁	令和5年度総会
2頁	徳島ペンクラブ新会長就任挨拶 新会長就任挨拶(続) 前会長談話・講演会あらまし
3頁	新役員紹介・ペンクラブ選集作品 募集・ひとりごと欄
4〜7頁	事業報告書類・会計報告書類
8頁	リレーエッセイ・ほんの散歩道

また丁山会長の惜しまれながらの勇退の挨拶と依岡新会長の受任の挨拶があり、徳島ペンクラブは、新しい年度の新たな一歩を進めております。ただ世界情勢や国内の社会構成の変化に根差した経済変動は、ペンクラブの財政にも影響を及ぼしつつあり、会員数の伸び悩み、諸物価や人件費の高騰が本会を直撃しております。本年のペンクラブ選集 part 41は、長年続けてきた特集を中断して経費節減を図り、掲載料を値上げさせていただく財政の立て直し議案が承認されました。一刻も早く諸問題を解決し、この耐乏運営から脱却したいものです。

新会長プロフィール

依岡 隆児 1961年生 出身 高知県

現職 徳島大学総合科学部 大学院教授
学歴 筑波大学 第二学群比較文化学類
東北大学 文学博士

専門分野 ドイツ文学・比較文学・比較文化
著書

- 「読書のススメ」四国からグローバルに 徳島新聞社二〇一〇年
- 「ギョクスター・グラス『渦中』の文学者」 集英社 二〇一三年
- 「読書コミュニケーション入門」読み書きの方法から 読書会の実践へ」 教育出版センター 二〇一八年
- 「新・読書のススメ」本の出会いと 読書コミュニケーションのために 徳島新聞社 二〇二二年

受賞 三木康楽賞・とくしま出版文化賞 他

社会活動 「まちライブラリー・ビブリオラボとくしま」を主催するなど、大学を中心にして「読書推進活動」を展開

◆徳島ペンクラブ・徳島新聞社主催「とくしま随筆大賞」の審査員として2010年より現在に至る。



◆新会長挨拶(前ページから続く)

いつしかこの活動が、私たちの「広場」となり、交流と創造の場になっていくことにも気づかされました。互いの個性を尊重し合い、違いを喜びとし、世代や性別、出自を越えて出会い、生き生きと交流できる場があったこそ、文芸は豊かに育つ。ペンクラブは、そんな「広場」であってほしいと思っております。

また、徳島ペンクラブは『徳島ペンクラブ選集』刊行、「とくしま随筆大賞」運営、シンポジウム・講演会の開催など、地域に根付いた活動を展開してきました。東京にも世界のどこにもない、ここでこそ発見できるもの、それを記録し、物語にして発信していくことは、まさに文芸団体の使命です。地域の、ひいては世界の、文化に貢献する活動になります。途切れさせることなく、続けたいものです。

このように私は、会長就任にあたって徳島ペンクラブのことを思い描いております。皆様と一緒に、文芸の広場を根づかせ、創造の輪を大きく広げ、徳島の文化を豊かなものにしていけたら、幸いです。とはいえ、歴史ある当クラブでは、還暦過ぎてても私など、まだまだ新米。皆様の指導、ご鞭撻、どうぞよろしくお願いいたします。

◆丁山前会長 挨拶

退任にあたって 丁山俊彦

5月の通常総会において、会長職を退任させていただくことになりました。2018年の5月に就任いたしましたので、ちょうど5年間務めさせていただきました。この間、会員の皆さん方のご理解と理事各位のご協力があった、なんとか大任を果たすことができたと感じております。

感謝の言葉しか浮かんでまいりませんが、多くの事業を役員の方々と進めることができ、楽しい時間を送らせていただきました。ありがとうございます。最後の文士田中富雄展をはじめ、「徳島花ものがたり」「各駅停車の旅」などの展覧会、朗読会もやりましたし、「文学散歩」も何度か開催いたしました。思い返せば、役員や会員の皆さん方のご協力の賜物でありました。

わたしの好きな中国の詩人の「人生の行楽は勉強にあり…」ではないですけど、それぞれが少しずつ無理をしてくださったからだと思います。この詩の後に「酒あらば惜しむなかれ瑠璃の盃」と続くのですが、コロナの影響もあり、会員の皆さん方と酒を酌み交わしながらの交流がほとんど出来なかったのは、残念としか言いようがありません。何かの事業が終わるたびに、事業のことや文学について語り合いたかったです。

講演 「狂気の沙汰を突き進む」



講師

住友達也

2012年4月、オーストリア・ウィーン経由でウクライナのチェルノブイリ(現在はウクライナ語でチョルノービリ)に入った。キツカケは、前年2011年3月に福島で起こった未曾有の原発爆発事故だった。

日本ペンクラブ環境委員会の委員長だった中村敦夫さんが「チェルノブイリの事故が起こってからです」に26年。私の年齢を考えると、福島の事故の26年後を見ることはできないだろう。ならば、福島の将来がどうなるのか、現在のチェルノブイリを見ることで、少しでも知ることができたなら」との発言だった。そして、環境委員会のメンバーであるボクにも声がかかり、創業したばかりの移動スパーとくし丸の事業を放つぽり出して、二つ返事で参加を決めた。

ウクライナ・キエフ(キーウ)から、車で数時間かけてチェルノブイリへ。事故現場から30キロ地点で嚴重なチェックを受けた後、事故処理の作業員が滞在する宿泊施設に入った。近くには公園があり、そこには「HIROSHIMA」「FUKUSHIMA」の文字が刻まれたモニュメントが作られていた。ウクライナの人たちが、日本に対して心を寄せてくれていることに驚くとともに、

その優しさに感動した。またそこには160本以上の村の名前が書かれたモニュメントも置かれていた。これらは原発事故によって消滅してしまった村の名前だということだった。衝撃だ。

施設で一泊したのち、次に10キロ地点で再度の嚴重チェックを受け、いよいよ爆発事故現場へ。近づくにつれ、手元のガイガーカウンターの数値が上がっていく。事故現場手前数百メートル地点で6マイクログシーベルト。26年経過して、コンクリートと鉛で覆われた施設は劣化が進み、さらに鋼鉄のドームで覆い隠す工事が進められていた(現在は完成している)。

それから7年後の2019年1月、今度は福島の原発事故現場に入った。そこでのガイガーカウンターの数値は、400マイクログシーベルト。コンクリートで覆うどころか、ほぼ2011年当時の事故の姿のままである。放射能はダダ漏れ状態と聞いていいだろう。もちろん2023年の今も、その状況は変わっていない。

この国は、本当に国民を守るつもりがあるのだろうか? 今、原発再稼働さらに新設までもが進められようとしている。まさに「狂気の沙汰」を突き進んでいる。

講師紹介

とくし丸取締役ファウンダー
徳島ペンクラブ理事

◆徳島ペンクラブ新役員紹介（令和5年5月21日改選）

●本年度から、次の陣容で本会の運営に携わらせていただきます。

顧問 竹内菊世・丁山俊彦（敬称略、順不同）

参与 岸 積・木村喜美子・蔭山美紗子・田上倉平

会長 依岡隆児

副会長 上窪青樹・鈴木綾子・西池冬扇・船越淑子・辻本一英・石川文彦

理事 山口久雄・東根泰章・関 眞由子・新開英毅・山本泰生・東條 孝

岩田公次・松田一美・永松宜洋・小川公三・渡辺恵子・山崎泰子

正木孝枝・住友達也・山本枝里子・北野ルル・小林光子・栗谷 健

監事 坂井 陽・住友京子

●専任事務担当者（役員の中からお願いしております）

〈会計〉松田一美〈会費係〉東條 孝〈名簿係〉松田一美・関 眞由子

〈事務局長〉鈴木綾子〈事務係〉渡辺恵子・山崎泰子・小川公三

〈編集長〉石川文彦（編集係）関 眞由子・正木孝枝・栗谷 健

※会員の皆様方には、以上よろしくお引き立てご協力ください。

◆徳島ペンクラブ選集Part 41 一般作品募集

●徳島ペンクラブ選集の一般作品を募集中です。Part 41号は、特集記事を省いて一般作品のみの掲載ですので、できるだけたくさん作品や長編作品を発表して下さいようお願い申し上げます。募集要項は次の通りです。

募集要項

一般原稿

散文作品 随筆・評論・短編小説など

韻文作品 俳句・川柳・短歌・連句・現代詩・漢詩など

◆テーマと作品応募について

テーマ 自由

注1、応募は、4000字詰め原稿用紙を基本とし、原稿には必ずページ数を

ご記入ください。手書き原稿の場合は、必ず2通のコピーをとって、

その一通と本稿をお送りください。原稿を受け付け次第、その旨電

話連絡いたしますので、電話番号もご明記ください。

注2、作品には、かならずタイトル（表題）を明記してください。

注3、ご投函後、2〜3日経っても原稿受理の連絡がない場合、お手数です

◆作品の掲載負担金その他について

1、見開き2ページを基本として負担金8,000円、追加1ページごとに、

3,000円を加算させて頂きます。値上げになり申し訳ありませんが、

諸事高騰の折柄ご理解ご協力下さいますようお願い申し上げます。



2、原稿受領後、会計から送付いたします請求書の金額を、郵便振替あるいは

銀行振込等で御納入ください。

3、原稿締め切り 2023年9月末日必着

4、原稿の送り先（編集担当者）

〒771-4262 徳島市丈六町長尾62-15

関 眞由子 宛

Mai1 ma.yu0204@na.pikara.ne.jp

Tel. Fax 088-645-1840

5、原稿をメールでお送りくださると、後の編集が助かります。メールを

利用の方は、よろしくようお願い申し上げます。

◆新会員紹介

この度ご入会されました会員の方を紹介いたします。新しい仲間を宜しくお引

き立て下さるようお願い申し上げます。

新会員 喜多條 高資さん 徳島市在住

◆ふんたふんた・ふんたふんた...

土を風と歩く

輮谷 日出夫

徳島も平年より一週間早く梅雨に入
った。じめじめと鬱陶しいという人も多
いが、しんなりと音もたてずに降る雨は
何とも風情がある。移り気に任せて色を
変える紫陽花に落ちる雨を見ているだ
けで飽きない。小学生の頃の記憶に、大
きな葉っぱの裏表にどこからともなく
カタツムリが現れ、角の先を触るとたち
まち引っ返ってしまう動きに目を向け
ていると、アマガエルたちは忙しそうに
びよんびよん元気よく跳ねていたのが
残る。学校の行き帰りには雨傘をさし、
ゴム長を履いて近所の友だちと一緒に
泥道にできた水溜まりを避けたり飛び
越えたりしながら通ったことが懐かし
く蘇る。
あれから半世紀余、紫陽花は変わ
らず映えているが、雨の日の代表選
手たちやそれらと過ごす子供たちを
一向に見かけなくなつた。街の変化
に隔世の感を覚えるのは私だけでは
ないだろう。学校ではタブレットが
学習に欠かせないし、放課後はスマ
ホで友達と遊ぶ。私たちの世代は自
然を五感で存分に感じ取って育つて
きた。対してデジタル化は視覚と聴
覚のみでやり取りが済む。嗅覚、味
覚、触覚を養う機会はぐんと減つた。
頭で考える前に感覚を体験しておく
習慣と時間が幼少期にこそ必要なの
ではと先が危惧される。



令和4年度(2022年度) 事業報告

徳島ペンクラブ

令和4年4月	初旬	第23回とくしま随筆大賞 募集開始	公募チラシ作成配布 A4サイズ、カラー両面 広報・各種マスコミ・各図書館・学校関係他
	29日	ペンクラブ通信 No188 発行 ①	ペンクラブ賞の発表 ペンクラブ総会の案内
6月	18日	徳島ペンクラブ総会 10:30~	会場 ザ グランドパレス (徳島市) 講演 ペンクラブ賞表彰式 総会 ランチ会食と懇親会
	30日	とくしま随筆大賞 応募作品締切	応募原稿 6/30(金) 当日消印有効 郵送先: 徳島教育印刷(株)内、
7月	21日	とくしま随筆大賞 審査	一次審査
	下旬	ペンクラブ通信 No189 発行 ② 県民文化祭 企画委員会	「ペンクラブ選集 part40」の原稿募集 400字詰め原稿用紙、3枚から5枚まで
8月	10日	とくしま随筆大賞 審査	二次審査
	下旬	とくしま随筆大賞 発表 「ペンクラブ選集 part40」	入賞者発表(徳島新聞掲載・受賞者に連絡) 特集は「とくしま各駅停車の旅」特集ページ 完成。1頁をA3サイズに拡大し、4枚一組の パネル写真として巡回展に使用
9月	4日	とくしま随筆大賞 表彰式 10:30~11:30	会場: 県立文学書道館 1Fギャラリー 表彰・講評・受賞作の朗読(本人)
		ペンクラブ通信 No190 発行 ③	とくしま随筆大賞 入賞者発表 県民文化祭イベントの案内等
11月	5日	鉄道開業150年記念 イベント「徳島各駅停車の旅」11:30	会場 徳島市シビックセンター4さくらホール 前日4日(金)13:00~ 設営・リハーサル
		第24回県民文化祭 分野別フェスティバル 13:30~ シンポジウム 秋の文学旅行	会場 徳島市シビックセンター4さくらホール テーマ「徳島の未来の文芸を考える PART II」 (新型コロナ感染拡大のため中止)
12月 令和5年	21日 ~1月 4日	「とくしま各駅停車の旅」 パネル巡回展①	キョーエイ鳴門駅前店 4階大ギャラリー
	下旬	「徳島ペンクラブ選集」part40 印刷発注 第24回とくしま随筆大賞 企画会議	特集記事 会員撮影のカラー写真と文章の 「とくしま各駅停車の旅」 募集要項チラシ作成 後援・助成金の申請
令和5年 3月	1日~ 10日	「徳島ペンクラブ選集」part40 発刊	令和5年1月15日付発行。 県内主要書店で取扱
		「とくしま各駅停車の旅」 パネル巡回展②	美馬市立図書館

- ※ 各事業は、「企画委員会」を開き原案を作成し、役員会で決定しました。
- ※ 「役員会」は、毎月1回、県立文学書道館で開き、各事業を審議しました。

令和4年度 収支決算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日) 徳島ペンクラブ

- A 収入総額 2,091,729 円
 B 支出総額 1,907,039 円
 C 差引額 184,690 円 (次年度へ繰越)

A 収入の部

科目	決算額	内訳	備考
会費収入	535,000	令和4年度会費 5,000円×106人 10月以降入会 2,500円×2人	530,000円 5,000円
総会費	87,000	総会参加者 29名	
負担金収入	571,500	ペンクラブ選集掲載料 掲載者 60人	571,500円
補助金収入	692,000	徳島新聞社から随筆大賞へ100,000円 県文化振興課より192,000円 県民文化祭助成金250,000円 徳島新聞社社会文化事業団150,000円	
協賛金等収入	82,000	協賛金 個人4名50,000円 団体19カ所32,000円	
本売上収入	22,000		
雑収入	2	預金利息2円	
繰越金	102,227		
計	2,091,729		

B 支出の部

科目	決算額	内訳	備考
事業費	1,138,304	ペンクラブ選集印刷代・発送費等 945,307円 ペンクラブ通信印刷代・発送費等 56,695円 (191・192・193号) 総会費用 87,000円 その他 ペンクラブ賞賞金等 49,302円	
通信費	44,128	切手・封筒	44,128円
会議費	18,059	役員会会場費・コピー代	18,059円
諸会費	9,400	徳島市文化協会会費・まゆやま掲載料	9,400円
事務費	7,336	事務用品(用紙・インク)	7,336円
特別事業費	682,992	随筆大賞関係 191,194円 県民文化祭シンポジウム 251,070円 パネル展各駅停車の旅・フルート演奏・人形舞 240,728円	
雑費	6,820	郵送通知料金・振込手数料等	6,820円
計	1,907,039		

令和4年度の収支決算について監査の結果、適正に処理されていたことを認めます

令和5年4月16日

会計監査 栗谷 健 印

会計監査 山本 枝里子 印

令和5年度(2023年度)事業計画

徳島ペンクラブ

4月	初旬	第24回 とくしま随筆大賞 募集開始 主催：徳島ペンクラブ+徳島新聞社	公募チラシ作成配布 広報・各種マスコミ・各図書館・学校関係他
	7日～ 11日	「とくしま各駅停車の旅」写真と文章 パネル巡回展③	藍住町総合文化ホール
	15日	ペンクラブ通信 No191 発行①	ペンクラブ総会の案内 とくしま随筆大賞の募集 徳島ペンクラブ選集 part41 作品募集他
5月	21日	徳島ペンクラブ総会 10:30～	会場 ザ グランドパレス徳島(ホテル徳島市) ・講演・総会・ランチ会食と懇親会
		県民文化祭 企画委員会	
6月	30日	とくしま随筆大賞 応募作品締切	6/30(金)当日消印有効
7月	14日	とくしま随筆大賞 一次審査	県立文学書道館
		ペンクラブ通信 No192 発行②	ペンクラブ総会の報告 「ペンクラブ選集 part41」の原稿募集
		県民文化祭 企画委員会	
8月	10日	とくしま随筆大賞 二次審査	県立文学書道館
	下旬	とくしま随筆大賞 発表	入賞者発表(徳島新聞掲載・受賞者に連絡)
9月	17日	第24回 とくしま随筆大賞 表彰式 10:30～11:30	県立文学書道館 2F 研修室2部屋 表彰・講評・朗読
		ペンクラブ通信 No193 発行③	とくしま随筆大賞 入賞者掲載
		県民文化祭 企画委員会	
10月		研修会	検討中
11月		第25回県民文化祭 部門別プログラム	企画中
		秋の文学旅行または県内文学散歩	検討中(昨年は、コロナウイルス感染症の継続流 行で中止)
12月	下旬	「徳島ペンクラブ選集」 part41 発行	令和6年1月15日付発行
		とくしま随筆大賞 企画会議	募集要項チラシ作成 後援・助成金の申請

- ① 『役員会』は毎月1回実施。基本的に第3水曜日 朝10時～正午。会場は県立文学書道館
 ② 各事業は、「企画委員会」を開いて原案を作成し、「役員会」で決定します。
 ③ 新型コロナ感染状況により、各事業の延期、または、取り止めになる場合もあります。

令和5年度 収支予算書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日) 徳島ペンクラブ

- A 収入総額 1,729,690 円
 B 支出総額 1,729,690 円
 C 差引額 0 円

A 収入の部

科目	本年度予算額	内訳
繰越金	184,690	
会費収入	525,000	令和5年度会費 5,000 円×105 人
負担金収入	570,000	選集 Part41 掲載料 65 人
助成金収入	350,000	徳島新聞社 随筆大賞 100,000 円 県民文化祭助成金 250,000 円
協賛金収入	50,000	協賛金 個人・文化団体等
雑収入	50,000	ペンクラブ選集売上代金等
計	1,729,690	

B 支出の部

科目	本年度予算額	内訳
事業費	1,310,000	選集 Part41 印刷代・発送費 700,000 円 ペンクラブ通信印刷代・発送費 60,000 円 随筆大賞関係 200,000 円 県民文化祭 250,000 円 総会・講演会・研修会 100,000 円
通信費	50,000	発送費・会員連絡用切手 50,000 円
会議費	20,000	役員会等会場費 20,000 円
諸会費	10,000	徳島市文化協会会費等
事務費	10,000	事務用品他
雑費	7,000	振込手数料・郵送通知料金
予備費	322,690	
計	1,729,690	

*各科目間の流用を認める

リレーエッセイ

そういうものだ 永松宜洋



5月下旬。4時56分
日の出とともに起床
し、血圧を測り、畑を
見回る。先週から、カボ

チャ、ズッキーニ、キュウリの葉がかしらられている。ウリハムシである。この虫は、朝だと動きが遅くて捕殺しやすいが、次の朝には増えているのできりがない。収穫と水やりを終え出勤する。

初夏の朝の陽光はひとときまぶしい。川の流れを左手に見ながら、堤防道路を下流に向かって運転する。色濃くゆつたりと流れる川面、木々は緑鮮やかだ。水田の早苗、土手の雑草も涼しげに揺れる。なんだろうこの感情は。これまで何度となく見てきたはずの風景を美しいと感じ、今日見られることを幸せだと感じている。私が認識し私が感じるこの風景。同時に、私の消滅とともにこの認識も感情も消滅し、それでも川は流れ続けるのだと思ひ、それでいいと思う。

物事が人間との関係によってのみ存在しうるといふ考え方を相関主義という。人間が見ているから存在するなどといった、すべての物事を人間中心に考えたとらえ方とも

いえる。人間が物事を認識し、認識するものが思考の対象となることが哲学の前提である。つまり、この関係を乗り越えて認識できないものを思考することは不可能であるというのが前提だ。この認識できないものをカントは物自体とよんだ。最近、メイヤスーという哲学者は、相関主義の徹底によりこの関係を乗り越えて、物自体を思考するという可能性を証明しようとするのだという。(難しい：)

日常の私は、多くの人の認識、思考、感情の多様さに関わり、働き、遊び、笑い、おびえ、たまに世の中の不合理さに怒りながら生きていくだけである。その中でふと感じる隔絶感や不安全感といったものは、認識した世界との関わりだけを生きるといふ人間の根源に根差すものなのせいなのかと思ったりしながら。まあ、理由などどうでもいい。今朝私に殺されたウリハムシの見る世界を私は知りようがない。そういうものだ。さて、職場の朝会が始まる。

ほんの散歩道

最近出版された方は、
「連絡ください。」

『風のアルバム』—350号記念合同句集

風嶺俳句会が30年目の節目に合同句集として『風嶺』350号を刊行した。遠嶺を目指す85名の連衆の自選の20句が並ぶ。序文には「俳句は上手くなるのが目的ではない」とあり、『風嶺』は「句風も統一せず自由な発表の場」であるが、会員の一文を読むと、それぞれの頂を目指す個性豊かな俳人像が透けて見える。

●A5判 188頁

3000円

●発行 風嶺俳句会



『白田亞浪の百句』解説付き

明治から大正への過渡期の世情の不安と焦燥そして寂寥を俳句に表現した寂しさの俳人白田亞浪の俳句は、時代の曲がり角の現代に相通じるでしょう。白田亞浪の百句を選び、解説を付けました。

価格1500円(税別)

著者 西池冬扇

出版社

ふらんす堂



『人形のムラ』—阿波木偶箱まわし保存会のあゆみ

本書は保存会誕生まで、弟子入りから継承へ、家まわり(門付け)の記録、次世代への伝承、箱まわしの足跡調査より、資料図録・目録、阿波木偶箱まわし保存会年表で構成されており、豊富な写真と共に、解説には英語、中国語、韓国語が添えられている。

●A5判128頁

●編集・発行

阿波木偶箱まわし保存会

・阿波木偶文化資料館

非売品



『明日への触手』

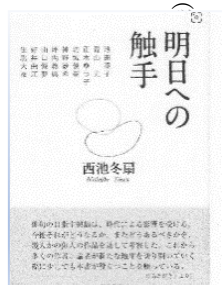
俳句のめざす興趣は、時代によって影響を受ける。その時代の背景がどのように表れ、それが時代とともにどうなるか、またどうあるべきかを9人の俳人の作品を通して考察した俳句評論の書である。

著者 西池冬扇

価格 2500円(税別)

出版社

ウエブ



あとがき

印刷技術の進歩もさりながら、読者の新聞離れ抑制のためもあるのだらうか、新聞がカラー化した。それに逆行するようではあるが、今年度のペンクラブ選集は、余儀ない理由で、モノクロ化と相成った。果たし

てどのような評を揮するであろうか。しかし元々選集はモノクロから始まっているし、その頃の選集を見分しても何ら見劣りを感じられないのはなぜだらう。原点に立ちかえって何かを見出すきっかけになればと思う。編集係

